

# 住民の性質による地域づくり活動への不参加に関する理由と環境の分類

## —神戸市の「里づくり」を事例として—

### Classification of the Reason and the Environment of Non-Participation to the Community

### Building According to the Characters of Residents

### -A Case of “Satozukuri” Plans of Kobe City

Key words: Reason, Classification, Community building

農村計画学分野 水戸 翔一

## 1. 研究の概要

### 1.1 研究の目的

近年、農村はさまざまな課題を抱えている。少子高齢化やそれに伴う核家族化、兼業化、耕作放棄地の増加、獣害、住民の生活環境の劣化、集落コミュニティの衰退、伝統文化の衰退などである。

神戸市では、これらの問題に総合的に対処する方策の1つとして、1996年4月「人と自然との共生ゾーンの指定等に関する条例」(以下、共生ゾーン条例)を制定した。共生ゾーン条例では、住民によって里づくり協議会を設立し、里づくり計画の作成などを行うことを定めている。

ここでは、住民の積極的な参加が鍵となる。こういった住民参加型地域づくりは全国でさまざまな形で運用されている。住民主体・参加型地域づくりは、次の4つの意味で有効である。4つの意味とは、①住民の多種多様な能力、意見を統合することができること、②住民が責任をもって行政に関わっていただけること、③各主体の考え方を相互によく理解できるようになり、合意形成が促進されること、④参加プロセスが、共同体に所属する人々の新しい価値・行動規範を生み出す可能性があることである。<sup>1)</sup>

しかし、その現場において、必ずしも全住民の積極的な参加が得られるわけではない。そういう場面では、住民の参加を促すための方策が求められる。そこで本研究では、アンケート調査を中心に、住民の里づくりへの不参加の理由について、住民をいくつかの群に分けてそれぞれ考察し、各群の住民それぞれに対して効果的に参加を促す方法を提案することを目的とする。

### 2.2 研究の方法

本研究では、神戸市の共生ゾーン条例に基づく里づくり計画を事例に、農村の住民が主体となって行う計画策定および計画実行について、積極的な参加を促す方策を明らかにする。そして、本研究では、住民をさまざまな性質によって群に分類し、それぞ

れに対して異なると推察される参加を促す方策を明らかにする。

そのために、①アンケート調査を行うことで、住民の群ごとの里づくりに参加したくない理由を明らかにし、②里づくり計画策定への参与観察によってそれを補完する。そして、③それらに基づいて参加を促す方策を提案する。

アンケート調査では、里づくりに参加したくないとする住民にその理由(以下、不参加理由)を問い、同時に尋ねる住民の集団によって不参加理由が異なることを明らかにする。

その後、参与観察を通してどのように地域づくりに関する環境が異なるかを明らかにする。

## 2. 対象地区の概要

対象地区である上北古地区は、神戸市西区神出町の南西部に位置する農業を中心とした近郊集落である。

上北古住民が構成する社会組織として、本稿で扱う里づくり以前から、自治会・農会・総合水利・土地改良・老人会・婦人会・子ども会・消防団・農地水環境・シルバーボランティア(シニアボランティア)・営農組合・生活会がある。

## 3. アンケート調査の概要

里づくり計画策定に活用する目的で、集落住民および他出子弟に対して異なる項目でアンケート調査を行った。本研究では、そのうち集落住民向けアンケート調査の一部の項目を用いて分析を行う。実施期間は2013年12月5日～12月27日であり、対象は上北古集落内の15歳以上の全ての住民、主として里づくり協議会役員による直接配布・回収を行ったところ、回収率は95%(配布:365部 回収:348部)であった。

## 4. 参与観察の概要

上北古地区における里づくりにあたっての9回の会議と2回の集落行事にて参与観察を行った。

## 5. 研究の結果

### 5.1 アンケート調査の結果

図1に示す単純集計によると不参加理由は、下の図のように上位から「参加時間がとれない」（以下、時間不足）、「活動内容がよくわからない」（以下、内容不明）、「体力的にきつい」（以下、体力不足）、「関心がもてない」（以下、関心低）、「効果が期待できない」（以下、効果低）、「貢献できない」（以下、貢献難）となった。

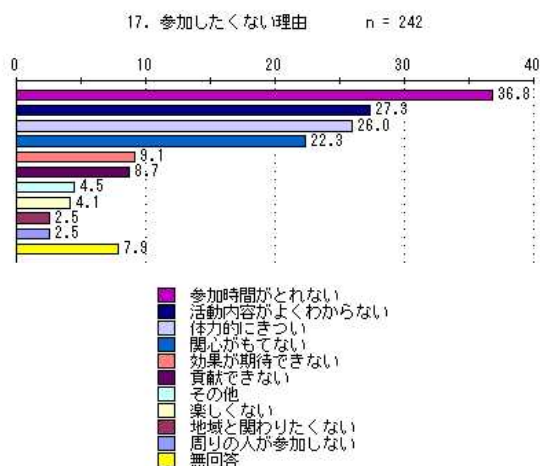


図1 不参加理由

他の問の回答ごとにこれら6つが不参加理由として選択される割合についてのクロス集計を行い、選択された割合が相対的に大きかった不参加理由によって整理したところ、表1のようになった。

表1 不参加理由として選択される割合が

大きい項目による整理

(太字は、不参加希望の割合が80%以上であった集団)

群記号	不参加理由	選択した割合が大きかった集団
A	時間不足	恒常的勤務, 臨時勤務, 40歳~59歳, 婦人会, 子供会
B	内容不明	非農家世帯主, 女性, 「営農組織を利用して集落ぐるみで農業を続けるべき」, 自慢「共同利用できる施設」
C	体力不足	女性, 高齢者, 老人会
D	関心低	非農家世帯主, 男性
E	効果低	里づくりへの関心が低い, 転用「積極的にすべき」, 行事「改善が必要」, 行事「やめたほうがよい」, 広報不必要, 交流イベント不必要
F	貢献難	一員意識低, 定住意向低, 里づくりへの関心が低い, 広報不必要, 交流イベント不必要

### 5.2 参与観察の結果

参与観察の結果、里づくりに参加することに関する環境について、次の表2のようなことがわかった。

表2 集団による参加環境

集団	環境
非農家	① 前半の協議会から参加する協議会の主要な成員は、外部から指摘されなくても参加を求めている。 ② 非農家の多くは内部出身者の兄弟などであり、集落内事情に疎くないと推察される。
婦人会	同じく協議会の主要な成員は、外部からの要請があつて婦人会員を意識していれば、それらの婦人会員に積極的な参加を求められる。
「行事を減らすべき」との回答者	協議会の主要な成員は行事を減らすべきという意見にどの段階でも消極的である。

## 6. 調査結果に基づく考察および結論

表2から、非農家・婦人会・「行事を減らすべき」との回答者に対する計3つの環境は、協議会の成員が参加促進策を採用する精神的な障壁の小さい順に並んでいると考えられる(表3)。表1と表3から、各群に対して参加促進施策を提案できる。

表3 集団による参加促進施策採用の難易度

集団	環境
非農家	低
婦人会	中
「行事を減らすべき」との回答者	高

たとえばA群に対しては、婦人会・子供会を通じて手間のかからない参加法の提案や、記事内容での勤務時間外を利用した短時間での参加可能性の示唆が参加促進施策として考えられる。このうち、婦人会に対する参加促進施策に関して、表6-1より、参加促進施策採用の難易度が中程度であり、外部からの提案があるか無いかということが最も施策採用に影響すると考えられる。

B群について、非農家世帯主や女性に関しては、そういった層の不理解を特に意識した説明をするという施策が考えられる。特に非農家については、表6-1より参加促進施策採用の難易度が低程度であるため、小さい援助で住民が比較的自立的に施策を実行に移す可能性が高いと考えられる。

さらにC群については、体力不足を不参加理由としている集団に対しては、より体力の要らない参加を提案することが参加促進施策として挙げられる。その時、老人会といった場を利用することも有効であると考えられる。

### 参考文献

- 1) 門間敏幸, 安中誠司(1997): 住民参加に関する市町村職員の意識特性と規定要因 一東北中山間地域を対象として一 農村計画学会誌 16 No.2. 98-109